



月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jimou@geppou.asj.or.jp 宛。

なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

宇宙科学研究本部教授

1. 教授 1 名
2. 宇宙科学研究本部 赤外・サブミリ波天文学研究系
3. スペース赤外線天文学
4. 赤外・サブミリ波天文学研究系では、人工衛星・観測ロケット・大気球を用いて、大気圏外から赤外線・サブミリ波領域の観測的天文学研究を行っています。現在、中心となるプロジェクトは赤外線天体サーベイ観測により銀河・星・惑星系の形成と進化を追う ASTRO-F 衛星です。また、さらに将来の赤外線天文ミッションの検討も進行中です (http://koala.ir.isas.jaxa.jp/index_ir_J.html)。今回募集する赤外・サブミリ波天文学研究系・教授には、ASTRO-F 衛星の開発、打上げ、観測運用において中心的な役割を担うとともに、赤外線天文学研究、あるいは赤外線観測技術の開発を通じて、将来ミッションの計画推進においても指導的役割を果たすことを期待しています。また、大学共同利用の機能を有する当研究本部の役割を理解し、内外の研究者等と協調して研究を遂行するとともに、大学院学生の教育・指導にも十分な能力のある方を希望します。
5. 決定後できるだけ早い時期
6. 博士の学位を有する者
7. (1) 履歴書、(2) 研究歴、(3) 論文リストと主要論文別刷、(4) これまでの研究概要と今後の研究計

画、(5) 他薦の場合は推薦書 2 通、自薦の場合は本人について意見を述べることのできる方 2 名の氏名と連絡先（住所、電話番号、電子メールアドレス）

8. 平成 17 年 3 月 10 日（木）必着

9. (1) 〒229-8510 神奈川県相模原市由野台 3-1-1
宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部
庶務課人事係

Tel: 042-759-8010

(2) 宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部
研究総主幹 井上 一

Tel: 042-759-8149

E-mail: inoue@astro.isas.jaxa.jp

10. 封筒の表に「赤外・サブミリ波天文学研究系教授
応募書類在中」と朱書きして、書留便にて郵送して下さい。応募書類は返却いたしませんので、あらかじめご了承下さい。また、選考に伴い発生する交通費・宿泊費については自己負担となります。

11. 待遇

- (1) 給与：能力・経験を考慮の上、機構の規定により決定
- (2) 休日休暇：機構の規定による（教育職特則あり）
- (3) 勤務地：相模原キャンパス
- (4) 任期・定年：任期なし、63 歳定年制
- (5) 宿舍：独身用・世帯用が用意されていますが、空室状況等により入居のご希望に添えない場合には、機構の規定により住宅手当が支給されます。
- (6) 社会保険：各種社会保険完備（健康保険、厚生年金保険）

名古屋大学大学院理学研究科

素粒子宇宙物理学専攻教員

1. 助手 1 名
2. (1) 素粒子宇宙物理学専攻、光赤外線天文学研究室 (Z 研)
(2) 名古屋大学大学院理学研究科（名古屋市千種区不老町）
3. 天文学

4. 光赤外線天文学の研究・当研究室で進めている研究・開発に専念して科学的成果を引き出していただける方を求めます。
5. (1) 決定後できるだけ早い時期
(2) 任期4年
6. 大学院博士課程終了またはそれと同等以上の方
7. (1) 履歴書, (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む), (3) 研究計画, (4) 業績リスト (査読論文とそれ以外を区別し, 共著の主論文には役割分担を記すこと), (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先
8. 2005年2月28日(月)必着
9. (1) 〒464-8602 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院理学研究科物理学教室
主任 鈴木順三
(2) 問合せ先
名古屋大学大学院理学研究科物理学教室
佐藤修二
Tel: 052-789-2923
10. (1) 封筒に「光赤外線天文学人事応募書類在中」と朱書きし, 郵送の場合は簡易書留でお送り下さい。
(2) 応募書類は, 特に申し出がない限り返却しない。

筑波大学 計算科学研究センター 研究機関研究員

1. 研究員1名
2. 素粒子宇宙研究部門(計算宇宙物理学分野)
3. 宇宙物理学(理論)
4. 宇宙物理学グループとともに理論宇宙物理学の研究を推進していただける方。現在, スタッフとして, 梅村雅之, 中本泰史がおり, 銀河, 宇宙論, 星, 惑星系等の研究を行っています。
5. (1) 平成17年4月1日
(2) 2年間
6. 平成17年4月1日現在年齢35歳未満で, 博士の学位を有する者または博士の学位取得が確実な方
7. (1) 履歴書, (2) 業績リスト(論文は査読付きとそれを区別), (3) 主要論文別刷(3編以内, 各1部), (4) これまでの研究の概要, (5) 研究計画と今後の抱負, (6) 本人についての意見を求める方2名の氏名および連絡先
8. 平成17年2月7日(月)必着
9. (1) 〒305-8577 つくば市天王台1-1-1
筑波大学計算科学研究センター

センター長 宇川 彰

- (2) 〒305-8577 つくば市天王台1-1-1
筑波大学計算科学研究センター
素粒子宇宙研究部門長 梅村 雅之
Tel: 029-853-6494
E-mail: umemura@rccp.tsukuba.ac.jp
10. 封筒に「宇宙物理学(理論)研究機関研究員応募書類在中」と朱書きし, 簡易書留か宅配便にてお送り下さい。
11. 一般職の非常勤職員に任用され, 月額約30万円の給与が支給されます(経歴等により若干の増減があります)。

そ の 他

第8回宇宙環境利用に関する地上研究の公募

(財)日本宇宙フォーラムでは, 宇宙航空研究開発機構(JAXA)の委託を受け, 国際宇宙ステーション等における宇宙環境を利用する研究の地上での準備研究テーマを募集します。

1. 募集する研究分野
 - ☆物理学・化学系分野
微小重力などの宇宙環境の特性を活かした物理学・化学研究
 - ☆生命科学系分野
微小重力などの宇宙環境の特性を活かした生命現象の探求
 - 宇宙を利用するための医学・心理学研究
 - ☆宇宙科学・地球科学系分野
宇宙や太陽系の科学的探求
 - ☆宇宙利用技術分野
宇宙利用の実現を支える技術開発
2. 微小重力実験機会の提供
小型ジェット機の放物線飛行や, 真空中の自由落下による微小重力実験の機会を提供します。
3. 募集期間
平成16年12月22日(水)から平成17年2月18日(金)まで
4. 募書類等
日本宇宙フォーラムのホームページからダウンロードして下さい。
<http://www4.jsforum.or.jp>
5. 問合せ先
財団法人日本宇宙フォーラム宇宙利用技術推進部
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル7階

Tel: 03-5200-1303 Fax: 03-5200-1421

e-mail: koubo@jsforum.or.jp

会 務 案 内

早川幸男基金受給者募集要項

早川幸男基金への次回の申請締切りは2005年3月10日です。渡航期間は2005年4月1日から6月30日間で、詳細は、天文学会のホームページ <http://www.asj.or.jp/> の「早川幸男基金」の部分をご覧ください。若手天文学研究者の皆様の積極的な応募をお待ちしております。

早川幸男基金選考委員会

2004年度天文学会にご寄付をいただいた方々です。ありがとうございました。深く御礼申し上げます。

(敬称略/受付順)

渡部直樹 白木隆裕 香内 晃 佐藤明達 (再掲載)
 藤沢健太 宮脇亮介 谷川清隆 高尾 明 林 佐絵子
 村上敏夫 徳丸宗利 金子英滋 川口市郎 箕輪敏行
 森本哲也 中井直正 飯島重孝 水間嘉典 北村 剛
 入口ふさ子 藤本剛二 瀬尾秀彰 田村 元 佐藤祐志
 井上 一 村井慎治 藤川繁久 竹内良夫 吉田敏彦
 小島 隆 小高正嗣 高橋芳幸

編 集 後 記

《退任のことば》

任期満了に伴い、次号から天文月報編集委員会のメンバーが半数ほど入れ替わります。これまで天文月報をご愛読いただきました読者の皆様に、立ち去る編集委員を代表して深くお礼を申し上げます。

私が天文月報の編集委員になったのは、もう6年前のことです。当時の編集委員だった平野尚美さんに誘われるまま、編集委員を務めさせていただくことになりました。私事ですが、その頃生まれたばかりだった次男は今春小学校に入学します。ちなみに長男は中学1年生、長女は小学5年生になります。まさに光陰矢の如し、といった心境です。

天文月報に掲載する記事は、著者が自発的に投稿してくるものと、編集委員が執筆を依頼するものに大別されます。自発的な投稿原稿は、本数も内容も投稿されてくるまで分かりませんので、数カ月後に発行する

天文月報のために、常に一定数の依頼原稿を確保しておく必要があります。原稿を依頼することは、編集委員の重要な仕事の一つなのです。編集委員になったばかりの頃は、誰にどのような記事を依頼すれば良いのか分からず、右往左往するばかりでした。私が担当していた依頼原稿の入稿が遅れたり、キャンセルされたりして、他の編集委員の皆さんにご迷惑をかけたこともしばしばありました(他の編集委員に迷惑をかける悪癖は、ついに最後まで直りませんでした)。原稿を何度か依頼するうちに、記事を書いてもらう著者にはいくつかのタイプがあることを学習しました。執筆を快く引き受けて予定どおりに入稿してくれる著者、執筆そのものをなかなか引き受けてくれない著者、執筆は快く引き受けてくれるが締め切りは絶対に守ってくれない著者。その他、特に依頼した記憶はないのですが、「こんな書いてみたけど、どう思う?」と言いながら、とびきりおもしろい原稿を時々思い出したように送ってくれる著者もいました。このようなさまざまな著者の方々とやりとりは、私にとって、とても良い経験になりました。

最近注目を集めている話題やまとまった研究成果を、数十ページにわたって掲載する「特集号」は、3年ほど前、上野宗孝前編集長の時代に始めたものです。読み応えのあるまとまった記事は、著者にとって、編集委員にとって、そして何より読者の皆さんにとって楽しいはずですが、編集委員会が現在のメンバーになった2年前からは、よりおもしろく、より充実した特集号を、1回でも2回でも多く出版できるよう、編集委員が丸となって取り組んできました。実のところ、私自身はいろいろな意味で編集長には向いていない人間だと思うのですが、幸運なことに、他の編集委員の皆さんはたいへん優秀な方ばかりでした。知恵袋のような太田耕司さん、教育普及にも詳しい洞口俊博さん、顔の広い濤崎智佳さん、即断即決の藤田 裕さん、律義で真面目な亀野誠二さん、表紙のデザインを毎回のように担当してくれた大石奈緒子さん、特派員的な増田 智さん、時折編集校正してくれる上田暁俊さん。特集号は、今では天文月報の標準的なスタイルとしてすっかり定着したと思いますが、それはこれらの方々のご活躍によるものです。また、煩雑な天文月報の事務作業を長年一手に引き受けてくれている山崎利江さんのご貢献も、忘れることはできません。

次号からは、新編集長の和田桂一さんのもと、ますます読み応えのある天文月報が読者の皆様のお手元に届くと思います。今後ともご愛読のほど、よろしくお願ひ申し上げます。新編集委員の皆さん、頑張ってください。 土橋一仁(東京学芸大学 教育学部)

《新任のこぼし》

数年ぶりに月報編集部に出戻ることになりました。久しぶりの編集会議ではすっかり浦島太郎状態ですが、優秀な編集員の方がたくさんいらっしゃるの得心強いです。これまでの路線と大きく変更する予定は今のところありませんが、ひとつだけ任期中に実現したいことがあります。それはまたのお楽しみということ……

和田桂一（国立天文台 理論研究部）

これまでは余計な仕事は避けてきたのですが、研究者として目処が立ちそうになってきたので、今年度から、天文月報の編集委員を務めさせていただくことになりました。すばる望遠鏡がフルに稼働中の現在、興味深い研究成果の記事を、数多く掲載させていきたいと思っています。

今西昌俊（国立天文台 光赤外研究部）

編集委員3年目の居残り組です。主に最終点検を担当してきたせいか、記事を読むときに、誤字脱字てにをは文法ばかりが気になって内容を楽しめない、という職業病です。間違いを指摘するお手紙に怯える日々でしたが、新体制では最終点検担当が分散されるそうなので、ホッとしています。

今年からはwebページの担当を引き受けることになりました。デザインを一新し、読者サービスを拡充していきたいと思っています。あと2年間、よろしくお願いします。

亀野誠二（国立天文台 スペースVLBI推進室）

現在はアタカマ大型ミリ波サブミリ波干渉計推進室で電波望遠鏡関係の仕事や電波望遠鏡を用いた星の誕生などを研究しています。これまで一読者として、天文月報に掲載されたさまざまな分野の記事を楽しんできました。今後は編集という立場から、読者の皆さんが興奮するような天体物理学最前線を紹介したいと思います。

齋藤正雄（国立天文台 ALMA推進室）

はじめまして、理化学研究所の牧島宇宙放射線研究室の寺田です。久々の、X線天文からの編集委員だということだそうなので、2005年にはAstro-E2衛星も

軌道にのることですし、ばしばしと皆様の成果が掲載できるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

寺田幸功（理化学研究所 牧島宇宙放射線研究室）

時間の経つのは早いもので2期目に入りました。最近ふと気づくと、これは記事になるかな？と自然に思っていたりします。原稿執筆をお願いに上がった際は、是非快くお引き受け下さいませ。

今後も、より愛される月報を目指してがんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

濤崎智佳（県立ぐんま天文台）

編集委員、3年目です。校正依頼が送られてくる月末ごろの出張には気をつけるようになりました。校正では、必然的に、いろいろな研究分野の原稿をていねいに読みますので、いい勉強になります。今後も、微力ながら編集に貢献したいと思っています。よろしくお願いします。

増田 智（名古屋大学 太陽地球環境研究所）

今まで読むだけだった月報の編集に携わる立場になり、楽しみであると同時に責任を感じています。読みやすく、かつ質の高いものを目指したいと思います。よろしくお願いします。

戸谷友則（京大物理学研究科 宇宙物理学教室）

編集委員になって早2年。まわりの足をひっぱりつつも、土橋編集長の暖かいご指導のもと、何とか務めを果たすことができました。もう1期続けさせていただくこととなりましたが、どうぞよろしくお願いいたします。洞口俊博（国立科学博物館 理工学研究部）

今年度より新しく編集委員になりました矢野と申します。編集という仕事は初めてですが最善を尽くして頑張っていきたいと思っています。未熟者でいろいろ至らないところがあるかと思いますが、どうかよろしくお願いします。

矢野太平（国立天文台 JASMINE 検討室）

編集委員 土橋一仁(編集長), 上田俊俊, 大石奈緒子, 太田耕司, 亀野誠二, 濤崎智佳, 藤田 裕, 洞口俊博, 増田 智
平成16年1月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社
定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
Tel: 0422-31-1359 (事務所)/0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2004 年（本誌掲載記事は無断転載を禁じます）